

大津市プラスチックごみ削減勉強会 2024 年度下半期 活動報告

作成：2025 年 7 月 9 日

文責：松村順子

1. 勉強会

忘年ランチ会	報告・意見交換・新企画検討	7 名参加	(2024 年 12 月 21 日)
第 3 回 勉強会	体験教室打ち合わせ	6 名参加	(2025 年 1 月 15 日)
第 4 回 勉強会	体験教室準備とリハーサル	6 名参加	(2025 年 2 月 21 日)

2. 施設見学

① 流域下水道・湖南中部浄化センター・淡海環境プラザ見学 (2024 年 12 月 12 日)

当会：4 名参加 参加者：20 名

国交省琵琶湖河川事務所主催による見学会に参加。私たちが使った水は、どう処理されているのか。流域下水道事業についてや、処理水の水質や琵琶湖や瀬田川への影響など、下水道施設の実態を見学し下水処理について学びました。耐久性を高めた下水道管にも、強化プラスチックが使われています。

その後隣接の淡海環境プラザで水質保全事業の取組などを学びました



② 湖南市ケミカルリサイクル工場見学 (2025 年 3 月 9 日)

・ 6 名参加

・ プラスチックのケミカルリサイクルや環境保全活動に積極的に進めている湖南市のミカタグループが毎年開催している見学会・ワークショップに参加し、プラスチックごみのリサイクルの現状と課題を学ぶことをめざしていた。はじめに海外のごみ問題やミカタが行っているプラスチックリサイクル活動について丁寧な説明があった。その後、丁寧な案内で工場内の見学をした。工場はきれいに整理整頓されていたが、バックヤードに産業廃棄物の大量のプラスチックごみが種類別に積み重ねられていて、特に菓子のプラスチック基板のごみ山が印象的だった。混合されたプラスチックごみから異物除去・洗浄の後、圧縮して固形燃料（RPF）を製造する工程を見学した。長さ 8 cm ほどの RPF は、製紙会社などのボイラーの燃料となるとのことだった。「プラスチックのケミカルリサイクル工場」との理解とは違っていた。



3. 啓発活動

① 甲賀市環境フェスタ ・ プラごみクイズとパネル展示で出展 (2024 年 11 月 16 日)

当会スタッフ：3 名 ブース来場者：約 50 名

甲賀市主催で初めてのエコフェスタに参加。前日準備の際、子どもの来場者が多いとの予想から、パネル展示だけでなくプラごみクイズも実施することにした。市長さんも参加していただき、子どもや家族連れなど、年代を問わずに熱心にクイズに答えてくれた。特に、「プラごみを減らすための行動を問う」クイズでは、積極的に発言をする小学生や斬新な意見の方などとのやり取りなど、盛り上がりが実感できた。クイズの数や問の置き方などの工夫が大切だと思った。



② 水辺の匠・クリスマスイベント・洗濯ばさみ対決ゲーム (2024 年 12 月 8 日)

当会スタッフ：5 名 ブース来場者：約 30 名

2 組が洗濯ばさみがいくつはさみ続けられるか、はさんで倒れた方が負けになるゲームを開催した予想以上に楽しんでもらえた。いくつの洗濯ばさみをはさめたかを競い、その数で 1 位から 6 位までの入賞組に賞品を渡した。簡単なゲームでも、最優秀のファミリーだけでなく、どなたも楽しんで参加している様子だった。



③ 子どものための「プラスチックごみ削減体験教室」 (2025 年 3 月 15 日)

日時： 3 月 15 日 (土) 13 時 30 分～15 時 30 分

会場： ウォーターステーション 実験室+2F ロビー

参加： 子ども 18 名 (保護者：6 名) 参加スタッフ：6 名

【1 部】① 導入のお話 → SDG s の視点から考えよう

身近な川のプラごみ、びわ湖にたまったポイ捨てごみの現状
漂うプラごみの問題・マイクロプラスチック問題(何が問題?)

* これは、ポイ捨てする人のマナーだけの問題ではないらしい

* プラスチックは悪者なの？

プラスチックのない未来が問題解決なのかな？



②簡単な実験をしてプラスチックについて知ってみよう。

(ア) プラスチック容器包装を調べる

- ・種類はどこをみればわかるのか（実物を調べてみる。プラマークや表示）
- ・汎用プラスチック 5 種類の名前と代表的な製品を知る

(イ) プラスチックの種類別の特徴を実験で調べる

- ・感触、比重、燃え方、けむりの色、燃えるにおい

【1 部】プラスチックを知ってみよう



【2 部】ワークショップ・クイズをしながらプラごみを減らす3R行動を考えてみよう

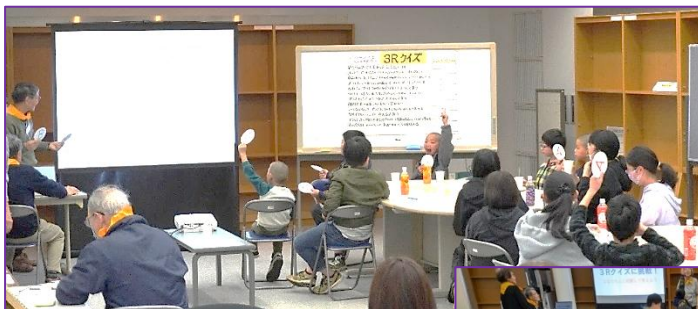
③ ワークショップ 1 「プラごみを減らす行動とは」

*ごみを減らして資源を大切にまもり、循環型社会をつくる3R行動について
クイズ形式で3Rに関わる行動の事例から、3Rのどれにあたるかを話合った

④ ワークショップ 2 「ボイ捨てごみを減らすために私たちができること」

何ができるのか、ひとつひとつみんなで考えてみよう。

*自分が今実行していること、または、これからやれる3Rのための行動を
「プラごみ宣言」としてポストイットに書いてそれぞれが発表した。



【ワークショップでの子どもたちの意見】

一人ひとりの3R行動とは							
		(時間の都合で、全員から聞くことができませんでした。9名のお友達の意見です)					
Reduce		マイバックを持っていく					
		レジ袋を買わない					
		親や友達から服をもらう・あげる					
		ゴミ拾いをする					
Reuse		マイバックを持っていく					
		入らないものを友達にあげる					
Recycle		回収をすすめて再生品として利用するためにも					
		のみ終わった牛乳パックはスーパーに持っていく					
		空になったペットボトルはスーパーに持っていく					
		(キャップ・ラベルをはずしてきれいに洗ってから)					

子どもたちのプラごみゼロ宣言									
1	コンビニとかでペットボトル製品を買うのじゃなくて、自分のお茶などを入れたマイボトルを持ち歩く								
2	これから私は、みんながごみ拾いをするようにしたいです								
3	マイボトルに飲み物を持参して、ペットボトルの飲み物をかわない								
4	マイバック・マイボトルをいつも持っています								
5	プラの袋・ケースなど小さいものも洗って分別をがんばります								
6	これから私は、落ちているごみを見つけたら拾って、分別をします								
7	外で出たごみは家に持ち帰って、家で分別をしてだす								
8	ぼくは、プラスチックのものをあまり買わないようにする								
9	マイバック・マイボトルをいつも持って出かけます								
10	人工芝をつかうようにはしません								
11	ごみひろいをする								
12	ゴミをすてたくなるような道にする（たとえば、きれいな絵をかく）								
13	きれいな街をつくって、みんながゴミを捨てたらダメな意識をもつようにする								
14	ポイ捨てをしない意識をつくるために、ごみ拾いをしてきれいにする「								
15	自分だったら、ごみひろいをする								
16	お出かけの時はマイボトルを持っていこう								
17	プラスチック製品を買っても、ポイ捨てしない								
18	責任をもって物を買ひ、最後までしっかり管理をする								
19	自分の買ったものをもちかえり、家で捨てる。責任をもつ								
20	ポイ捨てがとてもまずいことだと、人に伝える。責任をもつ								
21	今までどおりにポイ捨てしない								

【体験教室に参加した子どもたちからの感想】

みんなの「体験教室」を受けた感想や意見				
1	どんなプラスチックがあるのかを知ることができてよかった			
2	プラスチックが環境を汚染するものになることを知った。もっと減らさないといけないと思う			
3	プラスチックごみがどんなものなのかをした			
4	プラスチックにもいろいろな種類があることがわかった			
5	3Rの行動をどう考えているのか。みんなの考えを聞けてよかった			
6	びわ湖にもプラスチックごみの問題があることがわかった			
7	プラスチックの問題を知ることができた			
8	3Rのくわしい内容を知ることができた			
9	3Rのための行動をすることができて、実際に行動しようとおもった。			
10	プラスチックごみをへらすために、もっとごみ拾いをしようとおもった			
11	実験などからプラスチックの特徴がわかった			
12	プラスチックの燃え方を見られたのが面白かった			
13	3Rの行動をすることができた			
14	プラスチックの種類や特徴を知ることができた。みんなの意見をきける貴重な機会となった			
15	学校ではできない実験ができた			
16	プラスチックの実験・体験・みんなの意見を聞くことができて面白かった			
17	プラスチックを知ることができたので、プラごみをへらしたいと思った			
18	貴重な体験学習ができたと思う			

【スタッフの感想】

- ・子ども達が積極的に参加してくれた
- ・田上エコクラブの子ども達の参加で盛り上がった
- ・保護者や見学者の意見を聞くためのアンケートを用意するべきだった
- ・予定をかなり超過してしまい、結果として長かった
- ・好奇心を引き出せるプログラムだったと思う
- ・学校ではできない実験があってよかった
- ・見学者から、盛りだくさんなので2回コースに分けて実施したらどうかと意見があった
- ・ワークショップだけでは参加する人が集まらないと思う
- ・第1部の実験の時に、無駄に費やされる時間があつた。動きを選べばよかった
- ・実験は面白かった。こどもも興味をもっていた
- ・プラごみクイズの導入の話で事例を紹介したのがよかった
- ・「マイクロプラスチックストーリー」を見ていないという子も多かったので、当会で主催したらどうだろう
- ・長時間になってにもかかわらず、子ども達の興味と意欲が続いていた

- ・関心と興味のある子どもが集まっていると感じた
- ・ごほうびのタイミングがよかった。
- ・盛り上げ役になってくれる子がいて、にぎやかさと明るさがあってよかった
- ・答えをきめつけるのではなく、フリーに発言できるようにしたのがよかった

6. 川ごみ回収活動

- ① 長沢川清掃活動 3月26日（水） （参加者：2名）
 *燃えるゴミ 5袋、ペットボトル42本、缶 92個、びん7個、
 燃えないゴミ（車のバンパー、包丁、割れた瀬戸物類）
- ② 千丈川清掃活動 3月24日（月） （参加者：4名）
 *燃えるゴミ（汚れたペットボトルを含む）9袋
 ペットボトル 50本、缶 42個、
 燃えないゴミ（洗濯竿）
- ③ 高橋川清掃活動 河川内浚渫工事直後であったために実行しなかった。

●昨年よりも河川内のゴミが減ってきたようにも思える。特に、千丈川のポイ捨てペットボトルは減少していた。長沢川・千丈川とも、レジ袋が増えたこと、缶類のポイ捨てが年々増加していることが気がかりとなった。

以上